

令和6年度

華服飾專門学校

職業実践専門課程

学校関係者評価委員会資料

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

【2024 年結果】

< 結果 >

教育目標の1部（両科共通）について

- ・伝える力を養う

卒業製作発表会・・・伝えてはいる（話している）が、伝わらない学生がまだ多い。

複数の企業を招いての模擬面接練習実施（初の試み）。

- ・協働して目標を達成できる力を養う。

ピギーズ（ファッションショー）は学生主体で企画・実行し評価も高かった。

鶯華祭ファッションショーは衣装のデザイン制作など両学科、両学年で協働して実施。

< 課題 >

- ・「伝える力」は個人差が大きく、就職でも面接は今後も課題。
- ・協働作業に加わらない1部の学生への今後の指導方法検討。
- ・発表会は事前練習時間の不足。発表原稿にこだわる傾向。

【委員会 ご意見】

- ・協働作業に加わらない学生に対して⇒学生の納得度が弱くないですか。協働作業の目標及び、どんな答えを出すための作業か、さらに学生の役割分担は明確ですか。チェック機能はありますか。（白石）
- ・ファッションショー、学校見学や学校関連の行事など学生さんの運営団体を組織してもよいのではないのでしょうか（椿）
- ・伝える力を養うために経験は良いことだと思いますが、将来その力がどのような場面で生かされていくのか学生に意識させることが必要だと思います。話し方や態度が相手に与える印象が作用するか企業の協力で学生に伝えると良いと思います（塚田）
- ・「伝える力」の強化は重要な事項です。引き続き発表の機会や企業の協力を得た面接指導を継続されると良いと思います（岡田）

【2025 年対応】

- ・「伝える力」・・・現場でコミュ力の大切さを実感させる。
- ・企業の協力をえた面接指導の継続実施。

基準2 学校運営

自己評価結果

【2024 年結果】

< 結果 > ・入学者を増やすことを大前提に全ての取り組みを行いました。

- ・通信サポート校出身者複数名が前期の途中で不登校になり退学。それ以外もメンタルが弱い学生が多い。
- ・ファッションショーも規模を拡大し2年両学科全学生が参加。卒業製作作品をショーに出し、39ルックスと1.5倍とした。
- ・2024年後期より教員退職者1名。業務（授業・募集活動・オープンキャンパス）にも支障をきたす。来期に向け1名採用予定。

< 課題 >

- ・退学を未然に防止すること。
- ・出口（就職）もスムーズに進捗せず次年度も改善が必要。

【委員会 ご意見】

- ・不登校の学生⇒「共同作業の楽しさを教えること」。「あなたを必要としていること」の説明不足ではありませんか。（白石）
- ・学校としての魅力は入り口と出口だけでなく、いかしにして在学中に魅力的な学びをしていけるかだと思います（椿）
- ・少子化の中での学生募集に加え、少数の教員による運営は大変だと思います。学科を整理し一極集中でモノ作りに特化した学科など強みを強調する方向も良いのではないのでしょうか(塚田)
- ・入学者増は最重要課題です。オープンキャンパス参加者を増やすためにSNSの活用や高校内ガイダンスの参加増など認知度向上策が大切だと感じました。ファッションショーは魅力的でした。ぜひ多く方にご覧いただくようにしてください。少人数での運営は大変ですが新戦力に期待します（岡田）

【2025 年対応】

- ・通信サポート校出身の入学予定者も増加傾向で今後も不登校となりえる学生の対策（対応）の検討が必要。
- ・少人数の教員で授業運営、就職、日常の学生管理、募集活動を行うため、仕事の精査と個々の能力アップが必要。新戦力を活用し、募集を活性化。
- ・学生増のためには留学生の募集も必要。出口（就職）含めリサーチから行う。

基準 3 教育活動

自己評価結果

【2024 年結果】

< 結果 >

- ・ピーギーズなどファッションショーが学生主体で企画・運営。協働性、自主性を育てるには有効であった。
- ・1 年生では新たに「ビジネスマナー」の授業を導入。挨拶の習慣化を行う。
- 「ロールプレイ」の授業も継続しプレゼン力を養う。
- ・学内では学習できない実践力や感性を磨くため、インターン・見学会などに力をいれた。
- ・校外研修も1 年生は日帰り、2 年生は1 泊2 日とし内容をリニューアルの上に実施。

< 課題 >

- ・「ファッションセンスの向上」には服の構造を知ることが大切でトレンドの勉強が必要。
- ・様々な取り組みも肝心な学生が欠席しがちである。

【委員会 ご意見】

- ・“（半ば一方的）に伝える」ことだけで精一杯の学生が多い” が普通だと思います。その中でどんなことにこだわっているのかを引き出すことが重要だと思います。（白石）
- ・魅力的な学びをできるかだと思います。学校生活の充実を図れるモノを如何に学生自身が発見できるかだと思います（椿）
- ・実際の現場では学内の学びと何が違って、社会人になっていく過程で何を準備する必要があるかインターンを通して気付ける場を設けることは良いことだと思います(塚田)
- ・「ビジネスマナー」などの授業も良いです。校外研修も服将校ならではの魅力感じます。インターンも就職のミスマッチ防止にも良い取り組みです。新規の「ソーイング」「ファッショントレンド」の授業は成果を検証して下さい（岡田）

【2025 年対応】

- ・センスの向上のため
- テクニカル科では「ファッショントレンド研究」の授業を新規導入。
- クリエイター科では「ソーイング」の演習を1. 5 倍に増加する。
- ・春休みを利用したインターンを3 月・8 月に実施すべく、就職と絡めて受け入れ先を開拓し実行。

基準4 学修成果

自己評価結果

【2024 年結果】

<結果>

- ・スタイリングでは外部コンテストで入賞1名。
- ・ピギーズスペシャルでは学生主体で企画・運営し外部からも高評価。
- ・ファッションショーの全学生の参加を実行。全39ルックスのショーに拡大。
(在校生父兄を招待し好評を博す)

<課題>

- ・「卒業製作発表会」は、「伝わる」ではなく「(半ば一方的に) 伝える」ことだけで精一杯の学生が過半数。
- ・検定試験も合格率は低迷。原因は対策授業に出席しない。合格への意識も低い。
- ・高校生のファッションショーの観覧者が少ない。原因は広報部の学園祭の案内が遅いのが一番の理由

【委員会 ご意見】

- ・対外的にアピールする方法や、よりわかりやすい見せ方を再考してみては。(白石)
- ・専門知識は必須ですが人間的な成長も大切な要因だと思います(椿)
- ・外部コンテストは高校生に広く周知するためにも良いと思います。同規模の専門学校と合同のファッションショーを行い広く学生に知ってもらうのはどうでしょうか(塚田)
- ・外部コンテストは対外的なアピールにつながります。学生主体の取り組みも高く評価できます。検定試験は再検討が必要だと思います(岡田)

【2025 年対応】

- ・外部コンテストには今後も積極参加。
- ・学生主体でのファッションショーなど企画・運営は継続。
- ・ファッションショーは外部にPRする格好の場であり、評価の対象ともなるのでより注力する。
(高校生の動員を広報へ依頼。関係者も動員する方法を検討。)
- ・「卒業製作発表会」は時間をかけて指導。

基準5 学生支援

自己評価結果

【2024 年結果】

<結果>

- ・メンタル面で弱い学生が増加し様々な面で教員の負担が増加。
つど、学生本人と面談し保護者への連絡など退学防止に努めている。
- 授業中にリストカットする学生等は担任教員の精神的負担も大きい。
⇒カウンセリングの研修を教員対象に実施(3月)。

<課題>

- ・「高等教育の修学支援制度」は定員を継続し割れたため対象校からはずれる。
- メンタル面で弱い学生が今後も増加傾向。対応方法の検討が必要。

【委員会 ご意見】

- ・(経費の問題で)「カウンセリング」は他の学校(他社)と連携して対応してみてもいいのではないでしょうか。フル稼働でなくても

できるだけ早く対策や人材の確保が必要です（白石）

・十分ご支援されていると思いますが、学生同士の協働作業を図れるようなメンターの役割を持てる職員がいると良いと思います（椿）

・募集人員に課題があるため、メンタル面で課題の学生の（入学に関しての）精査は難しいと思いますが教員が対処できる最低限の基準を設けて学生のレベルアップを図ることが必要あると思いました（塚田）

・高等教育の修学支援制度対象校に再認定されるように目指してください。入学者減の要因になると懸念します。メンタル弱い学生への対応（面談・保護者への連絡）はどこまでやると線引きした対応が求められると思います（岡田）

【2025 年対応】

・カウンセリング常駐が学園として本来必要だが、服飾校単独で教員研修を継続実施し対応方法など学習する。

・「高等教育の修学支援制度」対象校復活にむけ募集増加策を検討。

基準 6 教育環境

自己評価結果

【2024 年結果】

< 結果 >

・パソコン・C A Dは本校では設備が整わないため、他校への協力も視野にいれ検討。日程・（他校への）移動時間・（借用する）費用を考慮すると現実的ではない。さらには自校で所持しない理由など「学生募集」では入学生に対するメリットは少ない。

・来年度より、数十年使用してきたマシン等の更新を中期的に行う。

・いまや学校でのW i - F i 環境は必須である。

服飾校単独で学費以外に徴収した教材費でクラス分だけレンタルし導入した。

< 課題 >

・トイレの設備をみても 20 年前の設備ゆえ、競争が激しくなる中で他校に対し見劣りする。生活に密着する設備は重要。募集にも影響は大。オープンキャンパス参加者のチェックポイントの一つとなり、学生からの声も上がっている。

【委員会 ご意見】

・設備機器は大切です。学生数減少の中で、機器が余剰となっている他の同業者を調査してみたらどうでしょう。（白石）

・専門知識はもちろんです。社会人基礎力をつける授業や魅力的な外部講師の講演はいかがでしょうか（椿）

・教育環境に関しては現在非常に厳しくマシンの更新に資源を集中させていく必要があります（塚田）

・教育環境の整備は緊急度と重要度を図りながら中長期計画をたて優先項目から改善していくことを期待します（岡田）

【2025 年対応】

・3 0 年来使用のマシンなど更新を優先的に数年かけて行う。

・授業では欠かせないプロジェクターなどの機器も増やす（更新）。

基準 7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

【2024 年結果】

< 結果 > ・オープンキャンパスでは実習体験、施設見学に在校生を今まで以上に活用。

⇒徹底して教員・在校生が親身に接した点がアンケートでは評価された。

⇒定員割れで、「高等教育無償化」は認可されずとも入学予定者は 1 名増。

< 課題 >

オープンキャンパス参加者は若干増加したが、それに対する入学者割合（歩留り）は昨年並み。

高校内ガイダンスへの参加回数が少ない。

常勤教員数が少なくガイダンス参加は授業変更を伴うケースが発生。

【委員会 ご意見】

- ・オープンキャンパスの参加増員が最大の課題です。「学生生活の楽しさを伝えること」「明るいキャンパス」「学生に笑顔があること」をどのように表現したら印象深く学生に伝わるかを演出し議論し高校生を迎えましょう（白石）
- ・高校生が（オープンキャンパスにきて）選ぶ段階で急に応募は増えないと思います。学生を大切にしっかりと育てていけば高校の先生は勧めてくれると思います（椿）
- ・学べる内容や学校としての実績は高校生には響かないと思います。「空気感」「雰囲気」「仲が良い」など抽象的なものを見ていると思います。（その点では）在校生に知ってもらおうということ前提で在校生に積極的に前に出てもらうことは良いことだと思います（塚田）
- ・さらにオープンキャンパス参加人数を増やす対策が必要です。参加者に御校の強みが伝わる内容も大切です。在校生と接する機会を通しての実習体験はとても良い取り組みです（岡田）

【2025 年対応】

- ・在校生と長めに接することができる実習体験が募集に有効と判断。
- ⇒オープンキャンパス内容を見直しし、実習体験中心に実施。
- ・早期退学者防止も兼ね、AO入学者対象に入学前の事前学習会を実施。入学者間でのコミュをはかってもらう。
 - ・新入職員をできるだけ活用し高校での模擬授業に参加。

基準 8 財 務

自己評価結果

【2024 年結果】

＜結果＞・大幅な赤字体質ゆえ、経費の支出を抑制を常に視野に入れつつも設備の不備や更新が発生。値上げの影響も受ける。雑収入として服飾協会実施の検定試験の会場貸し出しによる収入も検討したが協会側が設定する金額が安く、試験監督教員人数も不足し断念。

- ・（学生の負担を減らすべく教材費の高騰を考慮し昨年より見直しを実施し購入品目・数などの見直しを図った）。

＜課題＞

- ・学費収入を増やすには入学者を増やすしかない。
- ・一般者の外部向けの講座など雑収入の継続検討するも、休日のオープンキャンパス出勤などで時間的な余力なし。

【委員会 ご意見】

- ・特になし（白石）
- ・専門学校は旬な設備が命だと思います。学生のポイントも大きいと思います（椿）
- ・学生の大幅な増加は難しいと思います。教室貸し出しなど営業外収入につながる取り組みが必要だと思います。個人授業主への環境提供や講師の方への指導の様子など動画配信などチャンスあると思いました（塚田）
- ・収支の均衡を保つことが求められます。入学者増が優先ですが、施設の有効活用など新たな策を取り入れると良いと思います。（岡田）

【2025 年対応】

- ・入学者をまず増やすことで収入を増やすことが先決。
- ・快適な作業環境として、校舎の美化・設備投資も重要であり、検討する。

基準 9 法令等の遵守

自己評価結果

【2024 年結果】

<結果>

職員間連絡用に L I N E グループを設定していたが、私用の L I N E で行っていたため、ビジネス用「L I N E ワークス」に切り替え。

【委員会 ご意見】

- ・特にありません（白石）
- ・特にございません（椿）
- ・特にありません（塚田）
- ・個人情報の観点からも LINEWORKS の導入は適切です（岡田）

【2025 年対応】

在校生の注意すべき疾病などの情報を講師と共有する一方で、その他個人情報など（安易に）開示することがないように意識を高め管理して行く。

基準 10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

【2024 年結果】

<結果>学校・駅周辺もボランティア清掃は継続実施。

<課題>リメイクは選択授業で取り組んでいるが社会貢献とはリンクしていない。

【委員会 ご意見】

- ・特にありません（白石）
- ・地域貢献活動は学校として優先課題だと思います。服飾分野以外の活動も積極的に地域と関わる必要があります（椿）
- ・特にありません（塚田）
- ・御校の魅力が広く伝わり、より多くの方に選んでいただける学校になっていただければと思います（岡田）

【2025 年対応】

- ・ボランティア清掃は継続実施。
- ・台東区の「学びのキャンパスプランニング」へはメニュー提案済み。
- ・SDGs にからめた取り組みができるか検討。

総合（その他）

自己評価結果

【2024 年結果】

入学者の減少は本校だけに留まらず服飾の（専門）学校及び、アパレルの業界全体の課題である。本校としては他校とも情報交換しながら、企業の意見を取り入れ時代に即した教育を続けることが発足からの社会的使命と捉えて教育活動を行っていく。社会情勢の変化に伴い、入学者の質も変化しメンタルが弱く社会性に乏しい入学者の増加など、教員の負担は専門教育だけとはいわずに増加している。

限られた教職員数の中で効率よく、個々の能力を上げていく他はない。

【委員会 ご意見】

- ・特にありません（白石）
- ・協働学習や探究学習，ＩＣＴは高校ではかなりやっています。それを理解した上で教育活動をしていく必要があります（椿）
- ・厳しい状況のなか、積極的に動かれていますと思います。今後も積極的に協力できればと思います（塚田）
- ・御校の魅力が幅広く伝わり、より多くの方に選んでいただける学校になっていただければと思います（岡田）

【2025 年対応】

学校の特徴づけとして

- 1) 基礎のスキル（職能）をしっかり身につける教育。
- 2) 個別指導。
- 3) 「総合演習」としてインターン・研修旅行・校外見学会など実践教育の充実し単位化。
- 4) 日常の挨拶励行などビジネスマナーの教育。

をPRし、実行していく。